

まなびあい

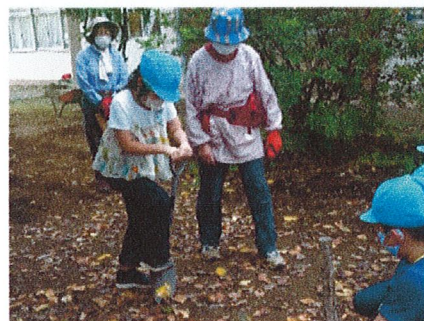
第2号 令和4年9月21日(水) 三芳小学校CS事務局

令和4年8月18日(木)、三芳小学校会議室にて、第2回学校運営協議会を開催しました。第2回協議会では、以下の内容について協議を行いました。

また、協議会の前には学校運営協議会役員及び教職員を対象とした三芳小学校コミュニティ・スクール講演会が開催され、生涯学習上級コーディネーター・社会教育士である大久保 昭男様に、コミュニティ・スクールの可能性についてご講演いただきました。

協議内容

- (1) 学力学習状況調査について
- (2) 三芳小学校ビオトープづくりについて
- (3) 学校評価について



▲支援者の方に教わりながら、子供たちもビオトープづくりを始めています。



(1) 学力学習状況調査について

令和4年度学力学習状況調査の成果と課題について、事務局より説明し、委員の皆様よりご意見・ご感想を頂きました。

三芳小学校児童の課題について

- ・正答率が県や国の平均より下回っており、全体的に課題が見られる。
- ・長文問題の読解が苦手
- ・物事を論理的に考えることが苦手
- ・記述式の問題が苦手
- ・情報を読み取る力や根気強さに課題がある

Q. 課題だけでなく、良く出来ている部分も知りたい!

A. 選択肢のある問題や、理科ならば器具の使い方等、基本的な知識を問う問題は良く出来ている。

学力調査には「今求められている学力」が現れている。
課題に対する対策は…

- ・一問一答ではなく、じっくりと考えられるような授業づくりを
- ・話し合いをもっと授業に取り入れる
- ・グラフの学習などは、表面的な情報から考察を深めていくような授業展開にする

課題になっている「文章の読解力」は、これからの社会で求められる力だと思う。ぜひ小学校で身に付けられるような教育をお願いしたい。

課題の解決を授業の中だけで達成するのは難しいのでは。学級活動等で児童がじっくりと考える場面を作るなど、日常の中に対策を取り入れてほしい。



(2) 三芳小学校ビオトープづくりについて

「自然に関心を持ち、自然や生き物と共生できる子供」の育成を目指して

～テクノロジーがもたらす生活の豊かさと、自然が育む心の豊かさ～

GIGAスクール構想による一人一台タブレットの配置等、昨今のテクノロジーの発展は私たちの生活を豊かにすると言われています。

相反して、社会状況の変化や家族関係により、子供たちの自然体験の機会は年々減少しています。特に近年のコロナ禍の影響は大きく、子供たちは多大なストレスを抱えた生活を送っているのではないかと思います。

学校生活の中で積極的に自然に触れる機会を増やし、子供たちの豊かな心を育みたい。また、持続可能な社会について考え、自らのふるさとを誇りに思い、大切に人間を育てたい。そのような思いから、三芳小学校ではビオトープの整備を計画しています。教育課程においては、生活科や総合的な学習において環境教育を中心に学ぶ予定です。

学校運営協議会委員の皆様より

- ・自分たちで整備を行うと、段々と学校が豊かになっていく実感を持てると思う。ぜひ作るころから、子供たちと一緒に取り組んでほしい。
- ・子供たちに計画・立案のところから関わってもらえると良いのではないかな。
- ・ビオトープにカブトムシ等と呼ぶには、数年の時間がかかるのではないかな。
- ・維持の問題など、継続していく方法を考えなくてはならない。昨今は夏休みに子供が来て世話をする等の対応は難しい。
- ・ビオトープを作ることには賛成する。あとは維持管理の面をどうするか、具体的に考える必要がある。
- ・専門家との協力は必要不可欠。
- ・三芳町は比較的自然に恵まれている。新たにビオトープを作る効果はどのくらいあるのか。
- ・維持管理について、保護者の負担はどのくらいあるのか。平日の作業はかなりの負担になる。行事や参観日に合わせて話し合いや作業を設定するなどの対応をしてほしい。
- ・虫が好きな子供はたくさんいる。ビオトープは良いと思う。
- ・情操教育の面で、生き物の観察はとても大切。
- ・ビオトープを維持する仕組みを作る過程で地域に声をかけることで、地域協同本部を作る布石にもなるのではないかな。

バッタのビオトープはプール脇の草地、トンボ、カブトムシ、オオムラサキのビオトープは飼育小屋隣に整備を進めています。

オオムラサキのビオトープ

準絶滅危惧種に指定されている日本の国蝶を呼ぶために、雑木林を作ります。エノキやウワミズザクラ、ネムノキ、アオダモなどの高木やウグイスカグラ等の中低木を植えることで、オオムラサキをはじめとしたチョウ類が生息するようになります。

バッタのビオトープ

草地に低木を植え、草刈りの面積と回数を工夫してチョウ類やバッタ、カマキリ、カナヘビやトカゲの生息地を作ります。また、野鳥も訪れるようになります。

トンボのビオトープ

水辺を設置。水草を植え、大型のトンボ（ヤンマ類）やシオカラトンボ、イトトンボが棲むことができる環境を作ります。

カブトムシのビオトープ

クヌギや中低木を植え、手入れの際に出る枝葉を積むことで「木の虫元気」、「おちばの虫元気」を作ります。カブトムシやクワガタムシ、虫を求めて来るシジュウカラ等の野鳥を呼びます。



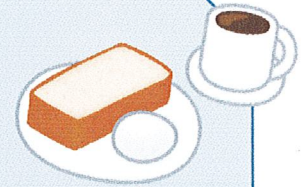
(3) 学校評価について

令和4年度第1回学校評価の成果と課題について、事務局より説明しました。

保護者アンケートに見られる成果

(良い評価が90%以上の項目及び、記述式の意見より抜粋)

- ・早寝・早起き・朝ごはんの励行
- ・家庭での会話がよくできている
- ・児童は楽しく学校に行っている
- ・友達と仲良く過ごせている
- ・少人数指導等、個別対応が工夫されている
- ・保護者の不安や質問に迅速に対応している
- ・ノートやクラスルームへのコメントにあたたかさを感じる、等



保護者アンケートに見られる課題

(良い評価が90%未満の項目及び、記述式の意見より抜粋)

- ・児童の生活・問題行動への相談・迅速な対応
- ・基礎学力の定着
- ・あいさつや言葉遣い
- ・学習の準備や家庭学習
- ・新型コロナウイルス感染症への感染対策の見直しをしてほしい
- ・PTA活動の見直しをしてほしい
- ・登下校時のトラブル、等

教職員学校評価に見られる成果

- ・全職員の協力体制
- ・いじめ防止、児童の悩み、トラブルへの迅速な対応
- ・健康、給食指導
- ・朝読書
- ・学校行事、等

教職員学校評価に見られる課題

- ・児童学力向上・個に応じた指導
- ・清掃指導
- ・モジュール学習
- ・あいさつ
- ・コロナ禍の影響にある行事、小中連携等、等

次回学校運営協議会は、12月開催予定です。

